



# 祝 景観賞受賞!!

この度、第三地区まちづくり協議会が、松本市景観賞のまちづくり部門の奨励賞をいただきました。受賞にあたり、高山幹事長より寄稿していただきました。

## 松本市景観賞の受賞にあたって

第三地区まちづくり協議会 幹事長 高山 金久  
 第30回松本市景観賞の表彰式が、一月二十七日、まつもと市民芸術館小ホールに於いて行われました。



菅谷松本市長から賞状を受け取る高山幹事長

第三地区の「歴史を大切に  
 したまちづくり活動」が、松本市景観賞「奨励賞」に選ばれたので、代表して受賞して来ました。感激のあまり観客席に一礼した時は無我夢中でした。

この賞を糧として地域の皆さんと共に忘れられてゆく、先人が残した文化遺産、歴史、自然環境の数々を大切にして次世代の若者、子ども達にのちの世に伝えていか

気なく通る場所に、歴史的な造りの建物があったり、自然な遺産があり、案内の方が詳しい説明をして下さるので、色々な事を知ることができ大変勉強になりました。地域の住民の方も「こんな場所」に「こんな遺産」があったんだと感じる事があると思います。大切に保存され、未来に繋がって行く様に願いつつ筆を置きます。

### 景観賞選考委員会からの講評

新しい産業が発展していくにつれて失われていくものを都市の遺産として残し、松本市の発展の様子を伝え、まちの歴史を大切にしていこうという想いを評価しました。

イオンモールが建つ前の第三地区には、片倉工業の歴史的産業遺産があったことを若者や子どもたちに伝えるため、以前の姿を地図に残し、それを頼りに一緒に歩いて巡ることは大切だと感じました。彼らがかつての姿を知るためにはとても必要なことだと思います。

今後は、地域の成り立ちなどに広げていく活動になることを期待します。

## 楽しい歴史マップを作っています

第三地区まちづくり協議会では、製糸業を中心とする松本の近代産業発展などの地区の歴史を、子ども達や地区の人が分かりやすく知ることが出来る冊子とマップの作成をしています。それぞれのイラストを担当していただいているのは、松商学園高校出身のお絵描き芸人・ヤポンスキーこばやし画伯さんで、大変面白い内容に仕上がっています。

3月に完成する予定ですが、その際には再び公民館報でお知らせしますので、楽しみにお待ちください。



右から、まちづくり協議会熊谷会長 ヤポンスキーこばやし画伯 まちづくり協議会高山幹事長



# 中学生になったら

4月から中学生になる2名に、これからの抱負をお聞きしました。

●村上 知里(ちまると)

(四ツ谷町会)

私が中学生になってがんばりたい事は、勉強と部活です。私は、特に算数が苦手なので自主勉強などをして、予習、復習をしっかりやりたいです。あと、もし行けたら塾にも行ってみたいです。

部活は、何か運動部に入りたいです。私は、運動を全然していませんので、中学では、しっかり運動して体力をつけたいです。

あと、友達ともたくさん遊びたいです。今の友達ともずっと仲良くしていきたいし、他の小学校の子とも仲良くになりたいです。

きっとまだまだ中学では大変なことはたくさんあるとは思いますが、しっかりと頑張っていききたいと思います。

私は、卒業するのは淋しくて嫌だけど、中学校もちゃんと楽しみます。

楽しい中学校生活を送ってね!



●本間 奈央(なおか)

(四ツ谷町会)

私が中学生になったらやりたい自分があります。

一つは何にでもチャレンジしてみよう!という気持ちを持って自分です。今までは、これやってみない?と聞かれても、絶対にヤダ!という気持ちしかなかったけれど、こんな経験は、もうできないかもしれない!というふうにポジティブに考えていきたいです。

もう一つは、自分に自信を持てるようになります。何か迷うと人にたよってしまふことが多くありました。でも、これ!と自分で決めたからには、それを信じてさまざまなことをせんたくしていききたいと思います。

このような、なりたい自分になるために今から少しずつでも、近づけるようにしていきたいです。

## 第三地区人権啓発推進協議会主催講座

### 「多文化共生をすすめるために」

二月二十二日に第三地区人権啓発推進講座として「多文化共生をすすめるために」というテーマでNPO法人CNT(中信多文化共生ネットワーク)の丸山文さんと嶋口アメリカさんのお話を聞きしました。

最初に丸山さんから、松本に暮らす外国人の住民数が3,961人(平成30年12月調査)と長野県内でも松本が一番多いことや「松本市多文化共生プラン」が制定され、比較的外国人が住みやすい環境が進んでいることなどのお話をお聞きしました。その後、フィリピンからお嫁にいられて日本人のご主人とお子さんと生活されているアメリカさんが、フィリピンの観光地や食文化などを交えながら、日本に来て驚いたことや、困った事などを具体的に話してくださいました。一番ビックリしたのは、外にあまり人がいないことや冬の寒さが厳しいことだそうです。言葉と文化の違いには戸惑うことも多く、言葉の意味が分からず、伝えたいことが伝わらないことに困っ

たそうです。また、学校教育の違いや子どもの受験などで、書類が難しく苦勞したことを聞き、外国人が異国で暮らすにはかなりの努力や苦勞をされていることに触れ、自分たち日本人に何ができるのか考える良い機会になりました。

アメリカさんは、このようなプレゼンテーションは初めてだったそうですが、良い経験だったとおっしゃっていました。このように交流を持つことで、お互いが偏見をなくし、視野が広くなり、外国人も住みやすいまちとなるのだと思います。そして最終的には国を超えた理解となり、世界平和につながるのだと実感しました。松本市では外国の方と触れ合う機会も増えています。皆さん積極的に参加しては如何でしょうか。



## 湧き水

先日、娘の出産に立ち会いながら、改めて命をつなぐということの神秘と偉大さを感じた。初孫をこの手に抱いた瞬間、涙が出た。しっかりと握りしめた小さな手はこれからの夢や希望を掴んでいくのだろうか。何とも言えない愛おしさがこみ上げた。

最近幼い子どもが犠牲になる悲惨な事件が連日報道されている。やりきれない気持ちになるのと同時に、子育てをする親たちが置かれている環境の変化に危機感を感じる。核家族化が進み、隣近所の付き合いも希薄になり、人がつながることを面倒くさいと感じる風潮が強くなってきている中で、ネット社会という顔を合わせない空間での繋がりがだけが異様な広がり強さを持つ。しかし、人は触れ合えなければ愛情や思いやりを感じることができないのだと思う。

家庭を個にすることのない社会を作り、地域も子育てを担う、そんな昔は当たり前前にできていたことを取り戻すことで救える命が沢山ある気がしてならない。全ての子どもが笑顔で暮らせる社会を望む。

(降旗 都子)